

第27回

東北大学感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点

# SDGS-IDセミナー

社会にインパクトある研究\_C3感染症超克 共催

## 感染症領域の臨床試験の 課題と教訓

～COVID-19治療薬開発に焦点をあてて～

2023年7月28日（金）12:00-13:00

【Zoom】参加無料【言語】日本語

参加登録

登録締切：7月27日（木）15:00迄

<https://forms.gle/CSfSvY6GvJiS6RmM9>

<プログラム>	12:00-12:05	オープニング
	12:05-12:25	講演
	12:25-12:55	質疑・総合討議
	12:55-13:00	ラップアップ



### 概要

パンデミックに際し、世界では公衆衛生の対応とともに、治療薬、ワクチン、診断薬等の研究開発が行われた。本邦でもそれらの研究開発活動は行われてきたが、公衆衛生上感染制御に重要なワクチンや、初期治療に期待される抗ウイルス薬の開発等は欧米に大きく遅れを取った。この反省と欧米諸国での成功事例の教訓を活かしつつ、今後本邦において感染症パンデミック下でも可及的速やかな医療プロダクトの研究開発が実施できる準備体制を構築する必要がある。

### 講師 神代和明

（医療法人明正会錦糸町クリニック 医師・(株) Allm・東北大学医学系研究科 非常勤講師）



金沢大学医学部卒業、米オレゴン健康科学大学院修了（MPH）。京都大学大学院医療疫学分野博士課程修了（Dr.PH）。厚生労働省の感染症危機管理専門家（IDES）養成プログラム加入。世界保健機関や外務省の Ebola 感染予防オペレーションほか、COVID-19 対策に従事し、武漢邦人退避ミッションやクラスター対策班に参加。2023年5月まで東北大学医学系研究科助教（押谷仁研究室）として、COVID-19の量・質的研究に従事。COVID-19治療薬を開発の課題・教訓抽出のために日・英・米で広範囲の聞き取り調査を行い、G7長崎保健大臣会合への提言を行う。現在、医療法人明正会錦糸町クリニックで訪問診療を行いながら、(株)アルムでウクライナ支援プロジェクトに従事。米国内科専門医、米国感染症専門医、米国予防医学専門医。日本内科学会総合内科専門医。米国内科学会フェロー（FACP）、REMAP-CAP Japan 日本地域研究管理委員会



東北大学感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点（SDGS-ID）

■ 拠点Web：<http://www.sdgs-id.med.tohoku.ac.jp> ■ お問い合わせ：[sdgs-id@med.tohoku.ac.jp](mailto:sdgs-id@med.tohoku.ac.jp)



東北大学 社会にインパクトある研究 -C3感染症超 <https://impact.bureau.tohoku.ac.jp/c3/>